



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

# 会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST  
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



# 5

2008, MAY

第1764回例会

平成20年5月22日



2008年5月

## ローターアクト地区大会



会 長	茨木 雅敏	広報委員長	奥 敏則
副 会 長	近藤 誠勝	広報副委員長	小甲 哲士
副 会 長	千葉 清孝	委 員	渡部 省一
幹 事	三野宮 功	委 員	久保 且佳
会 計	大沢 剛	委 員	田中 利昭
S A A	本田美喜男	委 員	北川 勝啓

### ■会長報告

会長 茨木 雅敏



こんにちは。先週もお伝えしましたが、保育所のグランドへの植樹を、27日午前10時から、ひばり保育所で行います。多くの会員の方々の参加をお願いします。今月のロータリーの友で、ライラが取り上げられておりますので、少しお話したいと思います。ライラとは、Rotary Youth Leadership Awardsの頭文字で、ロータリー青少年指導者養成プログラムのことを言います。このプログラムは14歳～30歳までの若い人々のためのプログラムで、ローターアクト・インターアクトも取り込んだもので、国際ロータリーが1971年から、公式に採用したものです。地区単位で実施され、セミナーや指導者キャンプなどにより、ロータリアンは、地域社会に在住する、若い人々の指導者として、また、善良な市民としての資質を伸ばし、個々の能力の開発に力を尽くす機会に恵まれます。その目標は、ロータリーが青少年への尊重や配慮を身をもって示し選ばれた青少年に対し、将来の指導者としての研修を与えることです。また、参加者がプログラムを終了した時はガバナーより、RYLA修了証書を贈呈されます。今年度は、8月に3日間北見市で開催され、170名程の参加がありました。地区からの予算として150万円を計上しております。以上、会長報告といたします。

### たいまつ宣言

この「たいまつ宣言」は創立30周年にあたり、西ロータリークラブの創立の心を知るところから発し、我々が未来へ向けての道標とするものである。たいまつのように我々の行く道を照らし、明るい未来へと導くものである。

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

### ■出席状況報告

月/日	4/17	4/24	5/8	5/15
例 会	1760回	1761回	1762回	1763回
総会員数	72名	72名	72名	72名
計算に用いる 出席数	65名	65名	65名	65名
ホームクラブ出席	42名	45名	49名	43名
ミーティング参加	19名	18名	14名	19名
欠 席 者	4名	2名	2名	3名
出 席 率	93.84%	96.92%	96.92%	95.38%

### ■今月の主な行事

- 5月 1日 休会(GW)
- 8日 誕生・結婚祝
- 15日
- 22日
- 29日 夜間例会 次年度委員会別運営会議



点鐘  
開会宣言  
ロータリーソング（我等の生業）  
ゲスト紹介  
（会食）  
会長報告

茨木雅敏会長  
柳沢一元副SAA  
茨木雅敏会長  
佐々木智穂先生  
帯広市立大正小学校  
茨木雅敏会長

会務報告 三野宮 功幹事

①帯広北RC、移動例会開催のご案内

日時 平成20年5月25日(日)午前9時～

場所 北海道立十勝エコロジーパーク

※尚、5月23日(金)の繰り下げ例会と致します。

②帯広西RC、夜間例会開催のご案内

・次年度委員会打ち合わせ・

日時 平成20年5月29日(木)午後6時30分

場所 北海道ホテル

委員会報告 ゴルフ同好会 奥田頼昌会員

・平成20年還暦・喜寿祝賀会のご案内

平成20年6月7日(土) 18:30 シャレード



ニコニコ献金 親睦活動委員会 横田幸宏委員

山田倫一郎会員 本日は、社会奉仕委員会のプログラムで卓話。ゲストに佐々木智穂先生をお招きしました。よろしくお願ひ致します。

齊藤憲生会員 社会奉仕委員会の行事で、光南病院で入れ歯の名入れで、勝毎に掲載されました。

大友広明会員 第一回ゴルフ同好会、真中賞いただきました。

細川周作会員 第一回ゴルフ同好会コンペで優賞しました。9番ウッド150ヤードが好調でした。

プログラム

社会奉仕委員会 山田倫一郎委員長

御紹介致します佐々木先生は現在、大正小学校の4年生を担当しておられ、また、全国的に展開している先生方の教育技術の向上と普及を目指す民間組織TOSSの会員として学習の実践等をしておられます。

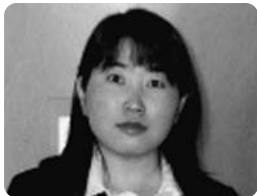


「ゲスト卓話」

帯広市立大正小学校 佐々木智穂先生

今、教育界は色々な課題を抱えています。

今日はその現状をいくつか紹介いたします。



### 1. 変化している子ども達

今、教室の中には約10%の発達障害の子どもたちがいると言われています。特別支援学級ではなくて、普通学級の中にいる発達障害の子どもです。

具体的にどんな子どもたちかというと、じっとすわっていることができなくて教室を歩き回ったり、ちょっとしたことで切れてしまい泣き叫んだり、先生が言うことにいちいち反応してしゃべり続けたり、ぼーっとしてほうっておくと何もしなかったり…そんなちょっと困っている子どもたちです。

私たち教師はそんな子どもたちにどのように対応したらよいかを研修しています。

合わせて、保護者も変わってきています。モンスターペアレントと呼ばれている常識外のクレームを

つける保護者のことです。

例えば、学芸会で主役にしると言ったり、早朝であるのが深夜であるのが担任の家に電話をかけてきたり、子供のけんかに介入して相手の子を非難する長大な文書を学校に送りつけてくる等の事例があります。

これは東京などの都市部だけでなく、残念ながら帯広にもこのような保護者はいる現状です。私の知っている先生も、保護者からのクレームで参ってしまっただけで休職してしまった人がいます。

この問題には、個人では対応しきれないということで、各教育委員会で対策プロジェクトができているところもあるようです。

### 2. 学習指導要領の改訂

学習指導要領の改訂に伴って、授業時数が増加されることになりました。1、2年生で2時間、3年生以上が1時間の増加です。これは、詰め込み教育の転換ではなくて、定着を図る繰り返し学習を充実させるための増加です。子どもたちの学力は落ちてきているのでしょうか。

また、平成22年から、5、6年生に英語が教科として入ってきます。

これは、コミュニケーションをすることを中心に行うもので、言語や文化に慣れ親しむ教科となります。中心は、話す・聞くの活動です。

その他、新指導要領では、食育の大切さについても主張されています。

### 3. 放課後子どもプラン

平成19年度より、「放課後子どもプラン」がスタートしました。

子どもが犠牲となる犯罪・凶悪事件が相次いで発生し社会問題化したことや、子どもを取り巻く家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、平成18年5月に当時の少子化担当大臣より、「地域子ども教育推進事業」と「放課後児童健全育成事業」の放課後対策事業を、一体的あるいは連携して実施してはどうかとの提案を踏まえ、当時の文部科学大臣及び厚生労働大臣の両大臣が合意し、「放課後子どもプラン」を創設しました。

「放課後子どもプラン」は、地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれるよう、文部科学省の「放課後子ども教育推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施するものです。具体的には、放課後や週末等に子どもたちの適切な遊びや生活の場を確保したり、小学校の余裕教室などを活用して、地域の方々の参加を得ながら、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取組を実施します。

そこで、地元十勝でも子どもたちのためにできることはないかということで、有志の教員が集まって「親子わくわく授業体験」をいうことを始めました。内容は、文科省から出されているような理科離れをなくすような楽しい理科実験をしたり、簡単にできる料理をしたり、英語活動をしたりしています。

ここでひとつ子どもたちにも行った授業を紹介いたします。

この様に、変化してきている子どもたちに対応しながら、楽しく学ぶことを実感させるべく教師もがんばっています。が、教師だけの力だけでは限界があります。

これからは、もっともっと地域と連携しながら子どもたちを育てて行きたいと考えています。

謝辞  
閉会宣言  
点鐘

茨木雅敏会長  
柳沢一元副SAA  
茨木雅敏会長